

夢を持っている子どもの姿は美しい！

「子どもたちに夢を！」という言葉は私も好きで、夢を持って頑張る子どもたちの姿は美しいものです。夢をもつことでスイッチが入り、今を頑張ることができるようになるとも言われます。では、子どもに希望を持たせるための「3つの視点」についてお話をしたいと思います。

① 子どもの好奇心に対して制限を加えない

子どもの好奇心は計り知れません。生命の危険が及ぶこと、自他を害することに対して制限することは当然ですが、子どもが興味関心を示したこと（例：昆虫、動物、料理、パソコン、各種スポーツ、歴史、音楽など）に制限を加えたり、無理にやめさせたりはしない方がいいでしょう。このような好奇心が子どもの中で原動力となって、自信を持ち、希望を持てる人間へと成長させていきます。希望の芽が出ようとしている上を“コンクリート”で覆わないことです。

② 子どもの能力に限界をつくらない

子どもの成績表を見て、「うちの子は、これぐらいまでしかできないから」と親が知らずのうちに天井を決めてしまっていることがあります。「子どもには可能性が無限大にある。うちの子も同様である」と信じてあげることが大切でしょう（ただし、過大な期待をかけてプレッシャーを与えることは逆効果になります）。希望の芽を小さい箱で覆わないことです。

③ 勉強に関しては、失敗や間違いにではなく「何が学べたか」に焦点を当てる

よくあるパターンとして、「テストで点数が悪い→親は怒る、または嫌味を言う→子どもは頑張ったフリをするか、諦める→さらに悪化」ということがあります。これは子どもの「できていないこと」に焦点を当ててしまっているため、親の心の中で「怒りや不満」という感情がたまり、爆発しかねません。しかし、「学び＝成長は、失敗や間違いから生まれる」ものです。怒る代わりに「何が学べたか、次はどうすればうまくいくか？」ということにだけ焦点を当てるようにするのは、やがて「自分はできる」と実感でき、自信が生まれ、希望がでてきます。希望の芽を摘み取らないことです。

以上の3つがなされたなら、あとは放っておくことです。あれこれ余計なことはせずにいれば、子どもは自分で希望の芽を真っ直ぐに伸ばしていきます。「夢を持つ＝なりたい職業を持つ」ということはとても素晴らしいことです。まずは、希望を、つまり自分にもできるかもしれないという期待感を持たせていく方が自然な形ではないかと思います。

このようにして育った、自分自身に希望を持つ子どもたちは、やがて将来の目標を見つけ、さらには実現させるための手段もたくましく見つけていくことでしょう。

〈 都留文科大学特任教授 石田 勝紀 〉